

資源庁長官官房統計課

19

大正十四年本邦鑛業ノ趨勢

鑛産局鑛政課

商工省鑛産局

凡 例

一、本書ハ主トシテ大正十四年中ニ於ケル本邦内地鑛業ノ概況ヲ輯録シタルモノナリ

但シ朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鑛業ニ關シテハ參考ノ爲メ各主管廳ノ調査ニ依リ其ノ要領ヲ附録トシテ載録セリ

一、大正十三年本邦鑛業ノ趨勢ニ掲ケタル同年及其ノ以前ニ係ル統計ニシテ本書ト

對比シ差異アルモノハ本書ニ掲クルモノヲ以テ正トス

一、輸出入ニ關スル事項ハ大藏省主稅局ノ調査ニ據リタリ

01
19

大正十四年本邦鑛業ノ趨勢 目次

總 說	一
-----	---

第一章 鑛業ノ出願	一
-----------	---

鑛業出願件數累年比較	一
鑛種別出願件數	二
地方別出願件數	四

第二章 鑛 區	一九
---------	----

試 掘	一九
探 掘	二〇
砂 鑛	二二
地方別鑛區數	二三
鑛種別地方別試探掘鑛區數	二八

第三章 鑛 產 額	四七
-----------	----

目 次	一
-----	---

概況.....四七

大正十四年鑛產額(前年トノ比較).....四八

鑛產額累年比較.....五〇

主要鑛山產出狀況一斑.....五五

大正十四年地方別鑛產額.....七〇

世界ノ鑛產額.....八二

第四章 鑛產物ノ輸出入.....八九

概況.....八九

鑛產物輸出國別.....九〇

鑛產物輸入國別.....九五

第五章 鑛產物ノ市況及市價.....一〇三

鑛產物ノ市況(石炭、銅、石油).....一〇三

鑛產物ノ市價.....一〇四

第六章 鑛山事業ノ概況.....一一三

各種鑛業ノ概況.....一一三

操業方法及設備ノ概況.....一一七

新ニ事業ニ着手シタル鑛山.....一五二

事業ヲ擴張シ又ハ擴張ニ着手シタル鑛山.....一七二

事業ヲ縮少シ又ハ休止シタル鑛山.....二四五

稼業鑛山數.....二五三

第七章 製鐵業ノ概況.....二五九

概況.....二五九

銑鐵、鋼鐵及鋼材生產額.....二五九

主要製鐵所別鐵鋼材生產額.....二六二

内地銑鐵及鋼材需給高.....二六五

第八章 鑛夫.....二六九

概況.....二六九

年齡別鑛夫人員.....二六九

作業別年齡別鑛夫人員.....二七〇

鑛夫ノ分布	二七〇
鑛夫人員前年トノ増減比較	二八一
坑内外別男女別鑛夫總人員累年比較	二八二

第九章 鑛山變災事故及鑛夫死傷病者

變災事故及死傷者	二八五
鑛夫死傷病者	二八六

附表

第一表 鑛山別產額表金屬山	一
第二表 同 石炭山	一九
第三表 同 石油山	三七
第四表 同 非金屬山(石炭、石油以外ノ)	三九
第五表 鑛產物輸出表	四四
第六表 鑛產物輸入表	四九

附錄 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケル鑛業

朝鮮

總說	一
一 鑛業ノ出願	二
二 鑛區	九
三 鑛產額	一八
四 主要鑛業ノ概況	二六
五 新ニ事業ニ着手シタル鑛山	二七
六 事業ヲ擴張シタル鑛山	三二
七 新重要鑛山	三六
八 鑛夫	五一
九 鑛山變災	五五
附表	

臺灣

鑛山別產額表	五七
鑛產物輸移出表	六一
鑛產物輸移入表	六三
出願	六七
目次	五

目次	六
鑛區	六八
鑛產	七一
主要鑛山ノ事業概況	七三
樺太	
出願	九三
鑛區	九三
鑛產及稼業鑛區	九五

(目次了)

大正十四年本邦鑛業ノ趨勢

總說

大正十四年中ニ於ケル本邦鑛業界ハ金、銀、銅、鉛、錫、亜鉛等ノ主要金屬鑛業ニ在リテハ政府ノ金拂下價格ノ變更、海
 外市價ノ昂騰及對外爲替關係カ尙常態ニ復セサリシ等ノ關係ニ依リ一般ニ市價ノ昂騰ヲ見タル爲稍好況ヲ呈シタルモ其他
 ノ諸鑛業ニ在リテハ一般經濟界ノ不振ニ伴ヒ依然沈滞裡ニ推移シ殊ニ本邦鑛業ノ大宗タル石炭鑛業ニ在リテハ管ニ類勢ヲ
 挽回スルニ至ラサリシノミナラス更ニ一段ノ不振ヲ招徠セリ

鑛業出願ハ試掘六千五十七件探掘五十一件砂鑛百四十三件合計六千二百五十一件ニシテ前年ニ比シ試掘百六十二件(三分)
 砂鑛四十七件(四割九分)ヲ増加セルモ探掘十六件(二割四分)ヲ減シ合計ニ於テ百九十三件(三分)ノ増加ヲ示セリ

鑛區ハ年末現在ニ於テ試掘七千六百四十一探掘五千百九十五砂鑛二千二百九十八ニシテ前年ニ比シ試掘三百三十五(四分)
 探掘二百五十三(五分)砂鑛三十(一分)ヲ各減少セリ

鑛產物ハ其總價額三億五千五百九十七萬七千四百十三圓ニシテ石炭石油等ニ於テ市價ノ低落ニ依リ多少ノ減少アリシモ
 金、銀、銅、鉛、亜鉛等ノ主要金屬鑛物ノ產額増加並市價昂騰等ニ依リ前年ニ比シ四百五十八萬一千六百七十圓即チ一分
 三厘ノ増加ヲ示タリ

鑛產物ノ貿易ハ輸出五千三百五十六萬三千九百九十圓、輸入二億六千九百四十七萬五千九圓合計三億二千三百三萬八千九
 百九十九圓ニシテ前年ニ比シ輸出ニ於テ千三百七十三萬九千六百九十七圓(三割四分)ヲ増加シ輸入ニ於テ一億二千四百三
 十五萬六千七百六十四圓(三割二分)ヲ減少セリ

製鐵業ハ外國品ノ壓迫等ニ依リ前年ニ比シ一層不振ナリシト雖モ建築材料其他鐵鋼材ノ需要増加ノ趨勢ニ在リタルト一面
當業者ハ生産費節減ノ爲大量生産ノ操業方針ヲ採リタル結果生産額ハ前年ニ比シ銑鐵九萬八千噸鋼材十九萬七千噸ノ増加
ヲ示セリ